シャルトル大聖堂のステンドグラス
《Baie48：聖ヨハネ伝の窓》
―― その3 ――

高野 禎子

要旨
第3回目の連載となる本稿では、12世紀末〜13世紀にかけて制作された《聖ヨハネ伝の窓》の現状での「カタログ」を提示する。コレット・マネスの基礎的な研究に基づいて2006年以来行ってきた現地調査の結果、仏英両国で計17例（マネスは13例挙げている）の窓を数えることができた。これらのリストは、研究の進捗状況によってさらに増える可能性があるものの、これまでの調査結果を再検討することによって、シャルトルの特徴をより鮮明にすることが期待される。次回はカタログ全体を俯瞰して最終的なまとめを行う予定である。《聖ヨハネ伝の窓》のある聖堂；サンス大聖堂、シャルトル大聖堂、ブールジュ大聖堂、ベイ礼拝堂、リヨン大聖堂、アンジュー大聖堂、トゥール大聖堂（2窓あり）、クーツンス大聖堂、ランス大聖堂、トロワ大聖堂、オーセール大聖堂、パリ、サント・シェルベール礼拝堂、サン・ジュリアン・デュ・ソー聖堂、リジー大聖堂、サン・ロー聖堂、リンカン大聖堂

A Propos de la « Baie 48 » de la Cathédrale de Chartres : Histoire de Saint-Jean
―― 3 ――

TAKANO Yoshiko

Résumé
Dans ce troisième article sur la Vie de Saint-Jean l’Évangéliste, nous dressons le catalogue provisoire des vitraux figurant la Vie de Saint-Jean l’Évangéliste en France et en Angleterre.

En France : Sens, Cathédrale « Baie 1 » ; Chartres, Cathédrale « Baie 48 » ; Bourges, Cathédrale « Baie 22 » ; Baye, Chapelle « Baie 5 » ; Lyon, Cathédrale « Baie 4 » ; Angers, Cathédrale « Baie 116 » ; Tours, Cathédrale (provenant possible de l’église Saint-Martin « Baie 3b » et « Baie 212 ») ; Coutance, Cathédrale « Baies 207, 209, 211 » ; Reims, Cathédrale « Baie 104 » ; Troyes, Cathédrale « Baie 202 » ; Auxerre, Cathédrale « Baie 12 » ; Paris, Sainte-Chapelle « Baie 1 » ; Saint-Julien-du-Sault, Eglise « Baie 3 » ; Lisieux, Cathédrale « Baies 29, 31 » ; Saint-Lô, Eglise « Baie 30 ».

En Angleterre : Lincoln, Cathédrale « Baies SII 3c, 3a et XXIX ».

C’est sur les vitraux de ces 17 monuments (liste susceptible de s’enrichir avec l’avancement de notre étude), que porteront dans le prochain article, des rapprochements précis avec la Vie de Saint-Jean l’Évangéliste de la Cathédrale de Chartres ; nous tenterons ainsi d’en dégager le caractère propre.
序

13世紀前半から半ば頃にかけて、「聖ヨハネ伝」のステンドグラスは北フランスを中心に相当数制作された。コレット・マネス・ドランブルによると、現在確認されている窓のうちも最古作例は、サンス大聖堂の数面でであり、その年代は1180年頃とされている。マネスが二番目に挙げるのは、シャルトル大聖堂の窓《Baie 48》である

サンス、シャルトルを筆頭にフランス国内の12聖堂の名に加えて、英国に残された唯一の作例としてリンカン大聖堂の3面を、マネスは挙げている。ただしマネスは聖堂名を列挙するのみであり、具体的に「聖ヨハネ伝」の窓の全体像を考察する試みは、筆者の知る限りないされたことではない。2006年秋期サバティカルの折に表記のテーマと出会って以来、同主題の窓の調査を継続して行ってきたが、ここで今までの調査結果をまとめておきたいと思う。フランスおよび英国での現地調査により、2010年9月末現在マネスの挙げた聖堂の数例が新たに加わり、結果として計17点の「聖ヨハネ伝」を数えるに至っている。

本稿の目的は、あくまでシャルトル大聖堂の窓《Baie 48：聖ヨハネ伝》を考察することにある。シャルトルの窓が担うと思われる重層的で多様な意味内容を考えるにあたり、しばしば同じくして制作された他の窓をも視界に入れることで、シャルトルの特徴が鮮明になると期待している。既に第一回、第二回の拙稿（本紀要第55号、第56号）で見たように、シャルトルと英国中世の説示録写本（英国立図書館【Français 403】）との間に図解学上の関連性が認められた。従ってフランス国内はもとより、英国リンカン大聖堂の窓にも注目しておきたい。

以下の手順で現状報告を行う。原則として中世ステンドグラス総覧《Corpus Vitrearum Medii Aevi、以下“コルプス”と略記する》（ただし注ではCVMAと略記）の説明に依拠しつつ、一部例外を除き4、コルプスにある作例年代の順に諸作例を並べる。第2番目のシャルトル大聖堂《Baie 48》については、第一回の拙稿で詳しく扱っているので、ここでは簡単な記述にとどめる。原則として次の項目で、各々の窓の様態を見つめることにしたい。なお紙幅の都合で今回は全体のリストを提示するのみに留め、データの分析やシャルトルの窓との比較検討は次回にまわすことにする。

窓の基本データ：聖堂の名称、窓の位置、制作年代、窓全体の大きさ、場面数

a）概要：聖堂の歴史的な背景、窓の形状・修復・改変状況、様式等

b）主題：聖ヨハネ伝場面の主題

c）文献：コルプスを基本に簡単な文献紹介

現地調査の結果、中世以来の度重なる修復・配置転換等により元の状態を復元するのが困難な作例が予想外に多く、場面の同定も容易ではないケースも多々あることが現場で実
感された。ともあれ困難な状況はそれとして、少なくともシャルトルの《聖ヨハネ伝》を考える上で、必要な諸点を押さえながら慎重に作業を進めることにする。初めにサンス大聖堂の窓から開始し、以下の順序で現地で撮影した写真とともに説明を加えてゆきたい。

【1】サンス大聖堂  【2】シャルトル大聖堂  【3】ブールジュ大聖堂
【4】ベイ礼拝堂  【5】リヨン大聖堂  【6】アンジェ大聖堂  【7】リンカン大聖堂
【8】トゥール大聖堂・その1（聖マルタン聖堂旧座？）  【9】クータンス大聖堂
【10】ランス大聖堂  【11】トロワ大聖堂  【12】オーセール大聖堂
【13】パリ、サン・シャペル礼拝堂  【14】サン・ジュリアン・デュ・ソー聖堂
【15】トゥール大聖堂・その2
その他（未調査）  【16】リジュー大聖堂  【17】サン・ロー聖堂

同時代の作例（カタログ）

【1】サンス大聖堂  Sens, Cathédrale Saint-Etienne,《Baie 1》【図1】，1180頃，6×2m，4ないし5箇面
a）概要  1140年以前の聖堂が1184年の大火災で焼失した後、1230年代までに再建されたのが、今日のサンス大聖堂である。修正・変更箇所が大変多く、建築・彫刻と同様に窓の年代設定は極めて困難な状態である。内陣の北側周歩路にある「良きサマリア人」、「救済息子」、「聖エウスタキウス伝」、「聖トマス・ベケット伝」などの窓は、当初の位置ではない。

《Baie 1：聖ヨハネ伝の窓》は、内陣中央の聖サヴィニャン礼拝堂にある【図2，3】。この礼拝堂には現在5つの窓があるが、中央窓の左ランセットに「聖ヨハネ伝」の一部がある。窓の形状は上部タンバンと2つのランセット窓に円形メナヨンを重ねており、計14箇面より成る。この窓には「聖ヨハネ伝」の他、「聖ベテロ伝」他も混在する。中央窓《Baie 0》は、1772年に作られた祭壇銅立のためにその一部が隠れて見えないが、8つのメナヨンより成り、『聖サヴィニャン伝』、「聖エウスタキウス伝」他が混在する。制作年代、図像解釈ともに問題多し。各箇面の背景は青地。

b）主題  左ランセットは7層より成り、次の箇面が「聖ヨハネ伝」である可能性が高い。
①ドルシアナの蘇生（銘あり）②アーテ型の建物の前に立つ3人物（アンドレ、ベテロ、ヨハネ？）③ラディナ門での刑刑（第1と第3層目；1180年頃か？）④船に乗り旅立つ（パトモス島への旅立ち？）⑤裁判の前に出廷する聖人（アリストテレスの前のヨハネ？）
c）文献 Bibliographie

・L’Abbé E.Chartrie, La Cathédrale de Sens, 1928, pp.88-89. etc.

【2】シャルトル大聖堂 Chartres, Cathédrale Notre-Dame,《Baie 48》, 1200-15頃, 7.85 × 1.88m, 16場面

b）主題 ①パトモス島への旅立ち②熱心者の執筆③ドルシアナの蘇生 ④クラトンと宝石の奇跡⑤人を黄金に変える奇跡と両替者による品の試食⑥スタグテの死 ⑦アリストテレスの前⑧毒杯をあおぐ⑨キリストとヨハネ⑩栄光の死

【3】ブルージュ大聖堂 Bourges, Cathédrale Saint-Etienne,《Baie 22》【図 4】，1210-15頃，6 × 1.2m, 10場面

a）概要 ベリー地方の中心地ブルージュには3世紀に既にキリスト教が伝播。現在の聖堂は1195年起工、1255年頃に完成していたとされる。内部は翼廊の無い五廊式で内陣周囲のまわりに展開する放射状祭室にステンドグラスが残る。

《Baie 22：聖ヨハネ伝説の窓》は、「キリストの親族 Parenté du Christ」と一体化している【図 5，6】。この窓は接続する「洗礼者ヨハネ伝説」の窓とともに内陣周囲の南側の礼拝堂にある。窓の形状は八角形のパネルが2列に並んで10層より成る。第2～5層目まではキリストの親族：アンナとヨアキム、3人のマリア達で、第6～10層目までの5層分の計10場面で「聖ヨハネ伝説」にあてる。各面の背景は全て赤青色の市松模様を配す。その周辺に細かく赤・青の市松模様を配す。

b）主題 ①ドミティアヌスの前②ラティナ門での油刑③二人の若者が持参した薪と小石を黄金と宝石に変える奇跡④熱心者の執筆⑤ドルシアナの蘇生⑥アリストテレスの前で毒杯をあおぐ、死後の蘇生⑦眠るヨハネにキリストが現れ「死の告知」をする⑧二人の若者の蘇生⑨栄光の死、祭壇上に聖杯と十字架あり

c）文献

・Cahier et Martin, Monographie de la Cathédrale de Bourges, 1841-1844, esp. Ch. XV (pp.272-276).

頃, 3.5 × 0.7m, 4 場面

a）概要 13 世紀初頭に建てられた城館付属の小規模な礼拝堂で、起源は古く 5 世
紀の聖アルパンに遡るという。当時のステンドグラスが比較的良好な保存状態で
残されている。アプシスの形は七面体で 10、革命時に資材置き場になっていた為
窓の下部に損傷を蒙るものの、全体としては保存状態が良い。19 世紀に大規模
な修復が行われた。西入口からアプシスに向かって北壁に、「エッサイの樹」「聖ヨ
ハネ伝」「キリスト幼児伝」「マグダラのマリア伝」「キリスト受難伝」がある。
南壁は城館と一体化していて窓は無い。西正面に窓の痕跡はあるが、現在埋めら
れている。

《Baie 5：聖ヨハネ伝の窓》の形状は、尖塔アーチ型で左右 2 区画に分けられ、
4 層より成る【図 7, 8】。絵飾りはアカンサス葉で、最下層は 1965 年装飾ガラス
に置き換えられた。各場面の配置は変更されたとの報告あり。様式的には、人物
の頭部が小さく、すらりと伸びた身体を覆う流麗な衣装表現に特色がある。キ
ノコ状の樹木表現や建築モチーフ、さらに玉座や棺の表現などは繊細で、色彩的
には赤・青・緑の色が目立つ 12。各場面の背景は全て青地である。

b）主題 ①パトモス島でのヨハネの幻視②パトモス島への追放③ドルシアの蘇生
④栄光の死

c）文献


・Dominique Daguenet, “La Chapelle du Château de Baye”, *Congrès

[5] リヨン大聖堂 Lyon, Cathédrale Saint-Jean, 《Baie 4》【図 9】1215-1220 et XX
世紀, 6.95 × 1.5m, 7 場面

a）概要 現在の大聖堂は 1170 年に着工され、12 世紀の内陣部、13 世紀の廊廊と
翼廊部、さらに 15 世紀に完成した西正面と変遷の跡を見せる。初期のステンド
グラスが内陣部に残されているが、当初の状態を留めている部分は限られており、
19 世紀の修復が大部分を占める。

《Baie 4：聖ヨハネ伝の窓》は「洗礼者ヨハネ伝」の隣りに配される【図 10, 11】。動物の象徴的な役割を予想の立場から描いた「贖罪の窓」、「聖ステファ
ヌス伝」、「幼児伝」が内陣の北側を占めるのは対照的に、2 人の「聖ヨハネ伝」
は南側に並ぶ。窓の形状は尖塔アーチ型で7層のメダイヨンより成る。「洗礼者ヨハネ伝」(保存状態は良好)の窓と同様、寄進者像が下部にあったと推定される。各場面の背景は全て青地である。

b）主題 ①足裏をの鞭し、ペテロとヨハネの奇跡②ラティナ門での油刑③十字架の執筆④キリストの幻視⑤使徒達を伴い、ヨハネに死の告知をするキリスト⑥栄光の死（19世紀の修復多し）

c）文献

・Lucien Bégule, Monographie de la Cathédrale de Lyon, 1880, pp.29-66.

頃，8.5 × 1.2m, 6 場面

a）概要 11世紀前半の聖堂が、12世紀半ば～13世紀半ばにかけて再建。イシュ部
は1210-39年、翼廊部並びにアプシスは13世紀前半に完成した。西期にわたる
にもかかわらず、内部空間は統一感が見られる。

《Baie 116：聖ヨハネ伝の窓」は南翼廊西側の高窓にある【図 13, 14】。形状
は尖塔アーチ型で8層の区画より成る。下部には20世紀半ばの抽象ガラスがはめ
込まれている。第3～5層目にて「聖ヨハネ伝」は6面が描かれている
15世紀、18～20世紀とこの窓はしばしば修復がなされ、上2層は13～
16世紀のガラスの寄せ集めである。各場面の背景は全て青地である。

b）主題 ①アリストデミスに衣を与え、死者を蘇生②死者的蘇生③ヨハネとアリス
トデミス④ドルシアの蘇生⑤アリストデミスの前、毒杯をあおぐ⑥死者的蘇生

c）文献

・Les Vitraux du Centre et des Pays de la Loire, CVMA, France Recensement
・Jane Hayward et Louis Grodecki, “Les Vitraux de la Cathédrale d’

84
リンカン大聖堂 Lincoln, Cathedral Saint-Mary, 《Baie S II 3c》《Baie S II 3a》《SXXIX 3》【図15】，1230年以前，3場面（ただしグロデッキによると，1210-20年頃）。

a）概要 初期英国ゴシックを代表する大聖堂である。西正面の一部にノルマン様式を残すが，他の部分は1192から1250年頃にかけての再建による。大小三つの翼廊部と十反形の参事会聖堂を備え，奥内陣のみが13世紀後半の建築である。13世紀のステンドグラスは18〜19世紀の修復・改変の結果，大幅に移動され，唯一元の位置に留まる北薔薇窓（最後の審判図；1210-20年頃）を除き，他の窓の当初の状態を復元するのは困難である。Lafond, Morganの研究によれば，旧約と新約の予型論的テーマ，聖人伝，聖母伝，使徒伝など，壮大なプログラムがここで展開されていたという。

「聖ヨハネ伝」の窓の遺構は，内陣の南側廊の窓《BaieS II》【図16，17，18】と南薔薇窓の下のランセット窓《S XXIX》【図19】に3場面がある。これらの場面はもともと南側廊に設けていた聖ヨハネ礼拝堂の窓であった可能性が高い。既述のとおりマネスによると，リンカンの断片が唯一英国で確認される中世の「聖ヨハネ伝」であるという。背景は全て青地である。

b）主題 ①ヨハネの説教②ラティナ門での油刑③クラトの弟子；宝石の奇跡

c）文献


トゥール大聖堂・その1（聖マルタン聖堂旧在？Tours, Saint-Martin），現在Cathédrale Saint-Gatien 在，《Baie 3》【図20】，1225-30頃（CVMA・コルブスは1250年頃とする），7×1.6m，13ないし14場面

a）概要 2006年夏の現地調査の際に初めて知ったことだが，トゥール大聖堂には13世紀の「聖ヨハネ伝」が二例存在する。本来この聖堂のために作られた窓《Baie 212》（1267以前，下記 No.(15)参照）と，これとは全く別系統に属する窓《Baie 3：聖ヨハネ伝の窓》である。後者が，聖マルタン聖堂にかつて在ったと推測されている，より古式を残したものである【図21，22】。

トゥール大聖堂は5世紀に創建され，6世紀聖グレゴリウスによる改修をうけ，
当初聖モリスに献堂されていた。その後14世紀の司教聖ガシアンに変更されて今日に至る。10世紀初めの聖堂は、12世紀前半に再建され、13世紀初めの火災後さらに1230年頃に大規模な再建がなされた。この時のステンドグラスは概ね1267年頃には完成していたと考えられる。その後14、17〜18世紀と相続く改築がなされた。1810年、近在の聖ジュリアン聖堂からステンドグラス60パネルの移設によって、大幅な窓の変更を余儀なくされる。これらの中に、旧聖マルタン聖堂の窓も混在していたと考えられている。《Baie 3：聖ヨハネ伝の窓》はこの時ものであろうと推測される20。

聖マルタン聖堂は、初期キリスト教時代からガリア地方のキリスト教化に重要な役割を果たした名高い聖堂である。5世紀に創建されて以来、幾度かの改築がなされ、ロマネスク時代には壮麗な聖堂となってサンティヤゴ巡礼路の代表的な聖堂として知られた。フランス革命による破壊（1804年）の惨禍を経て今も残る北翼廊の一部シャルルマーニュの塔など、かつての壮麗な姿を留めている。初期ロマネスク期の柱頭や壁面もあり、当時のステンドグラスに関しても何らかの遺構があったことは想像に難くない。

上記のごとく、今日の大聖堂内陣の窓の配置は複雑なものとなっている。サン・ジュリアン聖堂からの移設を含め、年代並びに図像プログラムの考察は困難を極める。中軸上にはもとこの聖堂にあった窓《Baie 0：タイポロジーの窓》、その左に《Baie 1：キリスト幼児伝》、右に《Baie 2：キリスト受難伝》，これら二つはともにサン・ジュリアン聖堂からの移設品である。さらに《Baie 3：聖ヨハネ伝》，《Baie 5: ヤコブ伝》，《Baie 7：聖ペテロ・パウロ伝》とともに聖マルタン聖堂からの移設品と考えられている。

窓の形状は、尖塔アーチ型窓の中央に四方形を90度回転した形、ないし円形を配置して、それらの中間層の左右両側に四葉形を半分にした形を配している。窓の最下層は変則的で、最大層の窓を除外して数えると計13層から成る。従って偶数層は一層構成で、奇数層は二層構成となる。全体として修復が多いものの、13ないし14層を確認できる。出自を含む重要な作例であると思われる。各層面の背景は全て青地である。

b）主題　①2天使（20世紀）②祈る寄進者③王が毒を準備させる④皇帝？の前に立つヨハネ⑤毒杯をあおぐ⑥死者の蘇生⑦薪を黄金にする奇跡⑧ヨハネの説教⑨磔刑図（他からの移設？）⑩パトモス島への旅立ち⑪黙示録の執筆⑫ラティナ門での油刑⑬ヨハネのミサ

c）文献

・Les Vitraux du Centre et des Pays de la Loire, CVMA, France RecensementII,
Paris, 1981. p.120.


・L. Papanicolaou, Stained Glass Windows of the Cathedral of Tours (Thèse dactyl), Ph D. New York University, 1979.


[9] クータンス大聖堂 Coutance, Cathédrale Notre-Dame,《Baies 207, 209, 211》
【図23】1230-35, 5.5 × 2.5 ないし 3.0m, 12 場面

a） 概要 クータンス大聖堂は創建以来幾度も変革を遂げている。5世紀には既にキリスト教が伝播して最初の聖堂が建てられた。9世紀バイキングの襲撃によりこれが破壊され、11世紀初頭に再建が開始された聖堂は1057年に献堂された。これはジュミエージュに似た双塔のある建物で、ラテン十字型平面ブラン、三層構造の立面を持つが内陣部の構造は不明である。現在の大聖堂で最も古い部分がこの時期のもので、1218年の火災を逃れて13世紀前半には大規模なゴシック式大聖堂に改築され内陣部が拡張された。その後数々修復がなされて今日の姿になっている。第二次大戦では辛くも爆撃を免れた。屹立する西正面の八角形の双塔、交差部の78mの高さの光塔がある大聖堂は、ノルマンジーゴシックの代表的な建築。ステンドグラスについては、司教ユーグHugues de Morville（在1208-38）の在任時に制作されたと考えられている。1230-40年頃のガラスが残る。

《Baies 207/209/211：聖ヨハネ伝の窓》は、内陣北側の三つの高窓に分散して置かれている21【図24, 25】。他には「洗礼者ヨハネ伝」、「キリスト幼児伝」、「ラザロの復活、例え話等の公生涯」、「聖母マリアの栄光」他があり、北翼廊に「聖トマス・ベケット伝」、「聖ゲオルギウス伝」、「聖ブレーズ伝」がある。色彩は青と赤のコントラストが目立つこと、「大天使と聖ロー」の窓で特に緑色が特徴的なことが現地で確認された22。窓は全体として修復が多い。「聖ヨハネ伝」の各場面の背景は全て青地である。

b） 主題 ① 聖を宝石に変える奇跡② アリストテレスの前、死者の蘇生③ 死の告知④ 栄光の死⑤ ヨハネの召喚⑥ 黙示録の導盲⑦ ドルシアの蘇生⑧ 殺手の洗礼場面
c）文献


[10] ルン＝ダニ堂 Reims, Cathédrale Notre-Dame,《Baie 104》[図26], 1225-30, 10.5 × 3.4m, 5 場面
a）概要 3世紀末に司教座がおかれ、496年フランク族クルヴィスが洗礼を受けた後、歴代フランク王国の国王戴冠式が挙行され、神聖視されて大きく発展した。カロリング期の聖堂が1210年に焼失した後、内陣部を起点に再建が開始されて14世紀末に完成。ステンドグラスは18世紀の改変、第一次世界大戦の爆撃によりその多くが失われた。内陣高窓に再利用されて残る。
《Baie 104：聖ヨハネ伝の窓》は現在内陣の南側高窓に、二つのランセットとその上の小さな丸窓を組み合わせて再利用された【図27】。内陣中央の「聖母子と磔刑のキリスト」の周囲に12使徒の窓を配する構成のうちの一つである。窓には「聖ヨハネ伝」と「小ヤコブ伝」が組み合わされている。その上の丸窓；六弁の花形に、「聖ヨハネ伝」の諸場面が置かれる。窓の形状は小さな丸窓の中央並びに周囲に、各場面を配す独特な構成となっている【図28】。背景は全て青地である。
b）主題 ①黙示録の執筆②ラティナ門での油刑③毒杯をあおぐ④アジアの七教会⑤栄光の死
c）文献

・Cahier (Ch.) et Martin (A.), Monographie de la Cathédrale de Bourges, Vitraux du XIIIe siècle, Paris, 1841-1844, pl. Etudes XVIII, XIX etc.

[11] トロワ大聖堂 Troyes, Cathédrale Saint-Pierre et Saint-Paul,《Baie 202》【図29】 1240-50頃, 9 × 3.5m, 6 場面
a）概要 現在の大聖堂は、11世紀初頭の聖堂が1188年の火災により焼失した後に1200年頃から再建開始されたもの。内陣部は1200-28年、全体は14世紀末までに完成した。ステンドグラスは1200-40年頃の初期の作例の他、13 〜 17世紀にまで至る多彩な年代の作例が残されている。
《Baie 202：聖ヨハネ伝の窓》は、西正面入口から入って東の祭室の祭壇に向かうと斜め上方の視界に入る位置にある【図 30, 31】。それは内陣高窓の南東側に位置している。日の光は比してさほど高さが無いために、中軸上の「キリスト受難伝」、左の「聖母昇天」の窓と並んで、観客に対して見やすい位置にあることが、現地で実感された。窓の形状はランセット窓がつぐ一組になったもので、修復部分は多いが上部の円形窓には「香を振る 2 天使」がいて、全体にまとまりがある23。各場面の背景は全て青地である。

b）主題 ①黙示録の執筆②ドミティアヌス帝と召使③毒杯をあおぐ④薪を黄金に変える奇跡⑤ラテナ門での油刑⑥栄光の死（頭部は 19 世紀）

c）文献


〔12〕オーセール大聖堂 Auxerre, Ancienne Cathédrale Saint-Etienne,《Baie 12》【図 32】，1250 建①，4.6 × 1.6m，3 場面（これに加えて「黙示録」8 場面あり）

a）概要 オーセールはシャルトル、ブルージュと並ぶ豊富なプログラムを有する。3 世紀にキリスト教が伝播し、4 世紀初頭には最初の聖堂が建てられた。1023 年ロマネスクの聖堂建設が始まり、1215 年には大規模なゴシックの大聖堂の建設開始となる。しかし 2 世紀を経て南塔のみが完成し、西正面は 13 世紀末、三つの薔薇窓は 15 から 16 世紀にかけて完成をみる。その後 1567 年にユグノー戦争により彫刻・ステンドグラスの一部が破壊される。仏革命時には司教不在となり、1905 年国家と教会の分離により Commune の所有となった。

ステンドグラスは 13 世紀半ばの作例が多く残る。ユグノー戦争によって内陣周辺窓の窓の下部が破壊され、場面の順序・配列が混乱しているものの、ガラスの保存状態は比較的良好で、人物像の頭部は全てオリジナルである。内陣部と周辺部をあわせると計 15 の内陣窓、32 のランセット窓があり、旧約、新約、聖人伝など総合的プログラムを示す。

《Baie 12：聖ヨハネ伝の窓》は南周辺第 7 番目にして、「放蕩息子」の主題と一体化している。下 3 層には「ヨハネ黙示録」の光景が描かれており、「黙示録」場面と「聖ヨハネ伝」が経びついている【図 33, 34, 35】25。窓の形状は尖塔アーチ型で 3 区画 9 層より成る。上部の 2 層 6 場面が「放蕩息子」の主題で、下部の 3 層 9 場面が「黙示録」と「聖ヨハネ伝」である。各場面の背景は全て明るい青地である。
b）主題 ①毒杯の準備②アリストテレスの前、毒杯をあおぐ③死者的蘇生

＊「黙示録」場面として以下の諸場面がある。

①ヨハネに天使が現れて火と霧の雨を示す②鎌を持つ死の使い③自馬の騎士④キリストと⑤天使⑥太陽をまとった女⑦7つの封印のある本を持つ神の子羊

さらに内臓部『Baie 21：モーゼ伝の壇』にも一部「黙示録」場面が含まれている26。①黙示録の騎士②地獄・レヴィアタンの口

「聖ヨハネ伝」と明確に言えるのは、第3層目のみである。ヨハネの存在はここで「黙示録」の著者としての位置づけであり、他の聖人像が同様な扱いと考えて差し支えないようにと思われる。「ドルシンアナの蘇生」、「ラティナ門での油刑」、「栄光の死」などの場面は確認されていない27。

c）文献


・Abbé René Fourrey, La Cathédrale d’Auxerre, Essai iconographique, 1931.


[13] パリ、サン・シャルベル礼拝堂  Paris, Sainte-Chapelle, 《Baie I》【図36】，1250年，13.5×2.16m，8場面

a）概要  聖王ルイ9世（在位1226-70）の王宮付属礼拝堂として1239～41年に着工され、1248年に献堂された。ステンドグラス窓が壁体の大部分を占める礼拝堂である。13世紀半ばに聖王ルイがピサノティン皇帝から入手した「クリストの薔薇冠」を安置するため設計された。仏革命で破壊され、1846年から再建がなされる程度は回復。約600㎡に及ぶ窓の全面積のうち、3分の2程度が元の状態を留めている。礼拝堂上階は単身廊で王一族のため、下階は廷臣達の空間として構想された。上階には計12の窓がある。

《Baie I：聖ヨハネ伝の窓》は、祭実中央に位置する「キリスト受難伝」窓の向かって左側にある【図37】。窓の形状は2つのランセット窓と上部タンバン窓より成り、細長い窓の全体は紡錘型のパネルを重ねて16層より成る。右ランセットは「キリスト幼児伝」を、左ランセットは「聖ヨハネ伝」を描いている。ちな
みにこれと対をなす窓には「洗礼者ヨハネ伝」と「旧約預言者ダニエル伝」が組み合わされている29。「聖ヨハネ伝」は細長い窓全体に計16場面が展開しており、うちオリジナルは半数の8場面のみ29。各場面の背景は全て青地である。

b）主題 ①ドミティアヌスの前（現代）②ラティナ門での油刑③パトモス島への旅立ち④黙示録の執筆⑤敵に黄金に変える奇跡⑥財産を放棄する若者⑦毒杯をあおる⑧アリストデモスの改宗⑨栄光の死

c）文献

- Les Vitraux de Notre-Dame et de la Sainte-Chapelle de Paris, CVMA
  France I, 1959, pp.185-194.
- Jean-Michel Leniaud, Françoise Perrot, La Sainte-Chapelle, Edition du
- F. Perrot, “Prolegomènes à l’étude de la rose de la Sainte-Chapelle : les
  panneaux du XIIIe siècle”, dans Iconographia, Mélanges offerts à Piotr

【14】サン・ジュリアン・デュ・ソー聖堂  Saint-Julien-du-Sault, Eglise Saint-Pierre,
ancienne collégiale,《Baie 3》【図 38】1250 頃, 6 × 1.5m, 28 場面

a）概要  サンスから 24 km に位置し、かつてのローマ・リヨン街道沿いにある。現在の聖堂は 1235 年頃に建設が開始され、1250 年頃にはほぼ完成。ステンドグラスの制作はこの時期と考えられる。聖堂内部部に集中してランセット窓が 10 個ある。色彩は豊かで総合的なプログラムの存在が確認できる礼拝堂である。ただし1849-52 年、1881-87 年、1939-45 年と度々なされた修復によって大幅な改変が見られる。内陣の中軸に「キリスト受難伝」、「聖ペテロ伝」、「聖プローラ伝」、「南側の「聖母伝」、「テオフィルス伝」、「聖母のお眠りと被昇天」、北側の「洗礼者ヨハネ伝」、「福音書記者ヨハネ伝」、「キリスト幼児伝」、「マグダラのマリア伝」、「聖バウロ伝」がある。

《Baie 3：聖ヨハネ伝の窓》は修復は著しいものの、サイクルとして残る好例である【図 39, 40, 41】。他の窓からの挿入も一部あり。窓の形状は尖塔アーチ型で 10 層より成る。最上部にヨハネの魂を受ける神、以下 9 層は卵形の枠内に 3 つのメダイヨンを並列して並べる伝を展開する。そのうち 6 パネルのみが現代の後補だが、他はおおむね保存状態が良好である30。各場面の背景は全て青地である。

b）主題 ①キリストとヨハネ【図 41】31 ②パトモス島への旅立ち③最後の晩餐④ラティナ門での油刑⑤黙示録の執筆⑥ミサ⑦ドルシアの蘇生⑧ダイアナ神殿の

91
倒壊？ッドミティアヌスの前、毒杯をおおぐ⑪死者の蘇生⑫アリストデモスの前？⑫死の告知⑮栄光の死

c）文献

[15] トゥール大聖堂・その2  Tours, Cathédrale Saint-Gatien, 《Baie 212》【図20】，1275以前，10.5×3.2m，12場面
a）概要 上記[2]で既に挙げた窓の他に、トゥール大聖堂にはもう一つの「聖ヨハネ伝」がある。内陣高窓の《Baie 212》で、「洗礼者と福音書記者二人のヨハネ伝」が一体化した作例。下部3分の一には「洗礼者ヨハネ伝」を、上部3分の二には「福音書記者ヨハネ伝」を描き出す。窓の形状は4つのランセットが並び6層より成る。「福音書記者聖ヨハネ伝」場面は以下の通り。
b）主題 第3層目〜第6層目まで。最上部には王冠をつけた聖人の半身像がある。
①磨きされた宝石を元に戻す奇跡②死者の蘇生③毒杯をおおぐ④パトモス島への旅立ち⑤孵出錦の執筆⑥ラティナ門での油刑⑦ミサ⑧栄光の死
c）文献
・Boissonnot, Chanoine, Histoire et Description de la Cathédrale de Tours, Paris, 1920, p.140-142.
（未調査）

[16] リジュー大聖堂 Lisieux, Cathédrale Saint-Pierre, vers1220-30, 《Baies 29, 31》, 2.2 × 0.6m, 4 場面
a）概要 アンリ II 世・ブランジネットとアリエノール・ダキテーヌの結婚（1152年）のため、火災で被災した大聖堂の再建をリジュー司教アルノ（在位 1141-81）が 1143 年に開始し、1182 年頃までに完成した。この時の建物は、中央塔と南翼廊の正面を残すのみ。アブシスと周歩廊は 13 世紀初めの部分で、周歩廊に 1893 年まで在ったステンドグラス窓は、現在北翼廊の窓に再利用されており、「聖ヨハネ伝」の場面がそこに混在して残っている。
b）主題 ① ドルシアナの蘇生 ② ラティナ門での油刑 ③ ドミティアヌスの前④ パトモス島のヨハネ（19 世紀）
c）文献

[17] サン・ロー聖堂 Saint-Lô, Eglise Notre-Dame, XIIIe s. 《Baie 30》, 5.0 × 2.2m, 2 場面
a）概要 多数の断片が現在の聖堂に再利用されている。
b）主題 ① パトモス島のヨハネ ② 油刑
c）文献

以上が 12 世紀後半～13 世紀に作られた《聖ヨハネ伝の窓》の 17 点・現存作例のリストである（分布図【図 42】）。さらに調査を進めてゆけば、どこかの聖堂で眠る「断片」に出会う可能性は充分ある。いずれにせよ窓の現状把握、移動の有無、制作年代、大きさ、全体像、各場面の構成、ステンドグラスの図像内容とともに、聖堂内で窓がどのような意義を持っていたのか、これら 17 点のデータ分析を踏まえて、次回シャルトルの窓《Baie 48》の再検討を行う。

注
2 以下のカタログ参照。15 点の作例を写真撮影を含めて現地での詳細な調査を終えましたが、最後の二点 [16] と [17] は未調査である。今後継続してゆけば、なおその数は増えてゆくものと思われる。
例外として（8）トゥール大聖堂《Baie 3》がある。本文参照のこと。

ゴシック大聖堂における「聖ヨハネ伝」の窓が、この聖堂でどんな意味を担っていたのか。デザインの著者であり、かつ第4冊福音書を書いたと中世時代に考えられていた聖ヨハネの生涯を、ステンドグラス研究の視点から捉え直すことは、大聖堂全体を視野に入れた新たな研究に寄与するはずである。

右フリットには「聖バウロ伝」が比較的保存状態の良い形で残される。

ちなみに内陣の高窓には「キリスト受難像」、「幼児像」、「聖エティエンヌ伝」など、1230年頃の制作年代の重要な窓が並ぶ。12世紀の窓はカントベリ大聖堂のガラスとの類似性が認められる。

詳細は本紀第55号（2007年、pp.61-79）を参照のこと。

Cahier Martinはこれを「聖ヤコブ伝」と解釈する。面面を良く見ると3人のマリア伝とも呼ぶのが妥当と思われる。

ランス大聖堂、シャロン・アン・シャンパニュのノートル・ダム・アン・ヴォー聖堂に類似した作例があり、建築家相互の交流をうかがわせる。


シャントルとの類似性は指摘できそうである。

a）キノコ状の木枠表現 Ex.No.15 場所のキリストとヨハネの出会い
b）建築モチーフ アリストテレスとヨハネのいる場面 Ex.No.13 の右からヨハネが入ってきただけに背後の戸が似ている。とするこれはドミティアヌス帝ではないか。
c）エッサイ、ヨハネ、幼児伝、マダラのマリア伝、受難伝というプログラムの問題

「使徒行伝」3：1

ここには大変興味深い窓がある。《聖ヨハネ伝の窓》と向き合うの《Baie 112 － 司祭、王、使徒の窓》で13～14世紀。アーモンド形の枠の形がヨハネ伝の窓と共通する。南薬草窓の「黙示録」も関連がある可能性あり。


N.Morgan, loc. cit.

カンタベリ大聖堂には目下確認されていない。

2006年Colloqueの報告書では、年代を遡ることを示唆している。大聖堂の再建年代、または聖マルタン旧在とすればさらに年代を遡ることが考えられる。現地で観察した結果、後世の修復が多いもの、画面構成や様式的な特徴などからCVMAの年代設定よりさらに数十年遡る。13世紀前半かやや早い時期に造ることができるように思われる。

1810年に旧サン・シュリアンSaint-Julien修道院がOrangeとして使用されていた状態を廃棄して、現在の聖ガシアン大聖堂にステンドグラス60パネルが移設されたという。この時の移設窓の中に、明らかにサン・シュリアンのもののとは異質なガラスが混在していたとされる。それが1804年の破壊により失われた聖マルタン聖堂のものと推測されている。


緑色のガラスはとても印象的であった。大聖堂で購入した以下の説明書によると、この窓は材料に海草を用いたためというが、第2回批判で批評された英国鶴見録着【Fr.403】の色彩に類似していという印象を抱いた。Cf.L.Fecond-Turand, *Cathédrale Notre-Dame de Coutances*, 2006, p.12。

場面配置に問題点もある。Cahier et Martinの著書（Vol.2, Etude XIII,D）によると、最も遠い2幅面「ラティフウの油刑」と「栢光の死」の位置が逆になっている。19世紀半ば以降の修復の際、自然変化したものと思われる。他面も果たして元の状態か疑問が残る。「聖ヨハネ伝」の右側の「聖ベテル伝」の次に、「賢い乙女と愚かな乙女」の主題が4ランセット構成で並んでいる。特に「賢い乙女」が高く掲げたラベンの形状は聖ヨハネの手にある毒草の形と似ていて興味深い。


同じ主題が西正面の扉のゴッホールに見られる。12使徒伝の彩画として、右の内側には四番目のヴェルヌールが「聖ヨハネ伝」とされている。

14世紀の窓にもヨハネ伝。南翼廊の東窓に二人のヨハネ伝が並んでいる。なお典拠として、Raguinは13世紀の鶴見録の第143頁【Français 403】等アングロ・ノルマン鶴見録との関わりに言及する。さらにラガストは証言者としてのオーセールのエミーHaymon d’Auxerreを取り上げ、

27 現地で大聖堂の解説書の執筆者 Patrice Wahlen 氏と出会い、庭園を借りて大聖堂の壁面の上を、ステンドグラスの間隔で観察することが出来たのは誠に幸いであった。写真撮影の許可もいただき、壁にガラスの凹凸に触れて手触りを楽しむことが出来た。「太陽をまとう女」の燃えるような赤ガラスの輝き、繊細なクリスタールの模様、各場面に小さく登場しているヨハネの姿が微笑ましい。原則として全ての場面にヨハネが居て、天使に促されて神の拝誌に立ち会う。「騎士の乗馬」「天変地異の表現」が見事であった。

28 ダニエル書とエゼキエル書の場面を『BibleMoralisée』の各場面と照合し、イザ・クリストはサント・シェルヴのガラスとの間に照応関係が見出せると報告している。これについては別稿で考察したい。

29 全体のプログラムは奇跡物語が中心に構成されている。回宗、宝石に変わる奇跡、毒杯の奇跡、栄光の死など。Guilhermy（コルプス）によると、顕著者の性格を重視して、ヨハネをキリストの受刑と結びつける教義や礼儀の影響が見られるという。また E.Mâle は 12 月 27 日・ヨハネの祝日との関わりを示唆している。


31 現地で気付いた点：最下層の Mission とされる場面について、19 世紀の修復万多が極めて注目に値する。ここではヨハネとイエスが二人だけで向き合っており、丁度シャルトルの《No.15》の場面と類似する。ただしこれが「最後の御齋」の前にきているのはあきらかに奇妙であり、私見では第 2 層目と第 1 層目を交換するほうが良いと思われる。

32 今後の考察を以下に要約すると予定である。

①シャルトルにおける主題選択の特徴：「油刑」場面が無いこと（16 例中 12 例に在る）／「スタクテの死」が他の聖堂に全く無いこと／小石を宝石に、卵を黄金に変える奇跡とその質の吟味等、シャルトルと異例の扱いがなされている（16 例中 7 例に在るものに、Bourges 以外二区画以上を占めるとして無い／死者の蘇生の場面が多いこと／ドルシアの蘇生、「スタクテの死」、「アリストテレスの死」死者に衣を与えて蘇生」という主題の同定に疑問あり／キリストとヨハネが向かい合う場面（サン・ジュリアンでは「Mission」とされる場面、シャルトルでは「死の告知」とされている場合）。②読み解きの順序：第一回指稿で見た通りシャルトルの窓は、上昇運動を上昇運動を二回繰り返して読み解くとされている（16 例中、後代の変更が明らかなものも除外してみると、例外なしに一回限りの上昇運動で足りている。読取りの順序について検討が必要であろう。
Catalogue des Vitraux de "la Vie de Saint Jean l'Evangéliste"

1. Sens, Cathédrale S. Etienne, Baie 1, vers 1180, 6 × 2 m, 4ou5 scènes
   (Réssurection de Drusiana ドルシアナの蘇生 / Supplice de l’huile boulante à la Porte Latina 油刑 / Départ pour Patmos パトモス島への旅立ち / Devant Aristodemos アリストデモスの前?)

2. Chartres, Cathédrale Notre-Dame, Baie 48, vers 1200-1215, 7,85 × 1,88m, 16 scènes
   (Départ pour Patmos パトモス島への旅立ち / Rédaction de l’Apocalypse 書示録の執筆 / Réssurection de Drusiana ドルシアナの蘇生 / Devant Aristodemos et la Coupe empoisonnée アリストデモスの前 Atlas / Martyrion de la Mort 死の告白 / Réssurection des Morts 死者的蘇生 / Dornition glorieuse 栄光の死)

3. Bourges, Cathédrale S. Etienne, Baie 22, 1210-15, 6 × 1,2m, 9 scènes avec des scènes de ‘Parenté de Christ’
   (Devant Domitianus ドミティアヌスの前 / Supplice à la Porte Latina 油刑 / Miracles des Pierres précieuses et les Bois en Or 藥と小さな石を黄金に変える奇跡 / Rédaction de l’Apocalypse 書示録の執筆 / Réssurection de Drusiana ドルシアナの蘇生 / Devant Aristodemos et la Coupe empoisonnée アリストデモスの前 / Martyrion de la Mort 死の告白 / Réssurection des Morts 死者の蘇生 / Dornition glorieuse 栄光の死)

4. Baye, Chapelle S. Alpin du Foyer de Charité, Baie 5, vers 1205-20, 3,5 × 0,7m, 4 scènes
   (Vision à Patmos パトモス島への幻視 / Devant Domitianus ドミティアヌスの前 / Réssurection de Drusiana ドルシアナの蘇生 / Dornition glorieuse 栄光の死)

5. Lyon, Cathédrale S. Jean, Baie 4, 1215-20 et XIX, 6,95 × 1,5m, 7scènes
   (Supplice à la Porte Latina 油刑 / Rédaction de l’Apocalypse 書示録の執筆 / Apparition à S. Jean 神の幻視 / Annunciation de la Mort 死の告白 / Dornition glorieuse 栄光の死; 19世紀の修復)

6. Angers, Cathédrale S. Maurice, Baie 116, vers 1220-25, 8,5 × 1,2m, 6scènes
   (S. Jean donne à Aristodemos son Manteau アリストデモスにマントを / Réssurection des Gens 死者の蘇生 / S. Jean et Aristodemos ヨハネとアリストデモス / Réssurection de Drusiana ドルシアナの蘇生 / Devant Aristodemos et la Coupe empoisonnée アリストデモスの前 / Martyrion de la Mort 死の告白 / Réssurection des Morts 死者の蘇生)

7. Lincoln, Cathedral Saint-Mary, Baie S 23c, S 2a 3XXIX, avant 1230, 3scènes
   (Prèche du Saint サン ヨハネの説教 / Supplice à la Porte Latina 油刑 / Craton et les Miracles de Pierres précieuses クラトンの弟子・宝石の奇跡)

8. Tours, Cathédrale S. Gatien (S. Martin 由来番?), Baie 3, 1230-50, 7 × 1,6m, 13ou14scènes
   (L’Empereur fait préparer le Poisson et les Condannés 毒の準備と死者 / Devant le Souverain pepper de la mort / La Coupe empoisonnée 毒杯 / Réssurection des Morts 死者の蘇生 / Transformation des Morceaux de Bois en Or 藥を黄金に変える奇跡 / Prèche 論教 / Soldats 兵士 / Départ pour Patmos パトモス島への旅立ち / Rédaction de l’Apocalypse 書示録の執筆 / Supplice à la Porte Latina 油刑 / Messe ミサ)

9. Coutances, Cathédrale Notre-Dame, Baies 207/209/211, 1230-35, 5,5 × 2,5ou3,0m, 12scènes
   (Transformation des Morceaux de Bois en Or 藥を黄金に変える奇跡 / S. Jean donne à Aristodemos son Manteau アリストデモスにマントを / Annunciation de la Mort 死の告白 / Dornition glorieuse 栄光の死 / La Vocation 召命 / Rédaction de l’Apocalypse 書示録の執筆 / Réssurection de Drusiana ドルシアナの蘇生 / Scènes de Baptêmes 児洗場面)

10. Reims, Cathédrale Notre-Dame, Baie 104 ; Rose (diam. 1,4m), vers 1225-30, 5scènes
    (Rédaction de l’Apocalypse 書示録の執筆 / Supplice à la Porte Latina 油刑 / La Coupe empoisonnée 毒杯をあげ / Sept Eglises d’Asie アジアの7教会 / Dornition glorieuse 栄光の死)

11. Troyes, Cathédrale S. Pierre et S. Paul, Baie 202, vers 1240-50, 9 × 3,5m, 6scènes
    (Rédaction de l’Apocalypse 書示録の執筆 / Domitianus et Serviteur ドミティアヌスと召使 / La Coupe empoisonnée 毒杯をあげ / Transformation des Morceaux de Bois en Or 藥を黄金に変える奇跡 / Supplice à la Porte Latina 油刑 / Dornition glorieuse 栄光の死)

96
[12] Auxerre, Ancienne Cathédrale S.Etienne, Baie 12, vers 1230-50, 4.6 × 1.6m, 3scènes Verrière de l’Enfant prodigue complétée par des scènes de l’Apocalypse et de S.Jean
(Devant Aristodemos アリストデモスの前 / La Coupe empoisonnée 毒杯をあおぐ / Réurrection des Morts 死者の蘇生)

Cf. Scènes de l’Apocalypse (La Pluie de Feu et de Grêle 火雨と雹 / le Christ tenant la Fauchille 糧持つキリスト / l’Archer au Cheval blanc 白馬の騎士 / le Christ et 7 Anges キリストと7天使 / La Femme vêtue du Soleil 太陽をまとう女 / Agnus Dei 神の子羊)

＊さらに他の窓（Baie 21）に黙示録場面あり (Un cavalier de l’Apocalypse et la gêule de Léviathan 黙示録の騎士、レヴィアタンの口・地獄)

(Devant Domitianus ドミティアヌスの前 / Supplice à la Porte Latina 油刑 / Départ pour Patmos 旅立ち / Rédaction de l’Apocalypse 黙示録の執筆 / Transformation des Morceaux de Bois en Or 薪を黄金に変える奇跡 / le jeune apporte ce qu’il possède / 財産を放棄する若者 / La Coupe empoisonnée 毒杯をあおぐ / Conversation de Aristodemous アリストデモスの改宗 / Dormition glorieuse 枝光の死)

[14] Saint-Julien-du-Sault, Église S.Pierre (Ancienne collégiale), Baie 3, vers 1250, 6 × 1.5m, 28scènes

[15] Tours, Cathédrale S.Gatien, Baie 212, Avant 1275, 10.5 × 3.2m, 12scènes

Verrière de S.Jean l’Evangélisite (Partie supérieure) et de S.Jean Baptiste (Partie inférieure)
(Miracles des Pierres précieuses 撃れた宝石を元通りにする奇跡 / Réurrection des Morts 死者の蘇生 / la Coupe empoisonnée 毒杯をあおぐ / Départ pour Patmos パトモス島への旅立ち / Rédaction de l’Apocalypse 黙示録の執筆 / Supplice à la Porte Latina 油刑 / Messe ミサ / Dormition glorieuse 枝光の死)

その他（未調査）

[16] Lisieux, Cathédrale S.Pierre, Baies 29 et 31, 1220-30, 2.2 × 0.6m, 4scènes
(Réurrection de Drusiana ドルシアナの蘇生 / Supplice à la Porte Latina 油刑 / Domitianus et la Coupe empoisonnée ドミティアヌスのと前、毒杯をあおぐ / Vision à Patmos パトモス島での幻視)

[17] Saint-Lô, Église Notre-Dame, 13s, Baie 30, 全体 5.0 × 2.2m, 2scènes
(Vision à Patmos パトモス島での幻視 / Supplice à la Porte Latina 油刑)
図1 サンス大聖堂、ステンドグラス配置図
Sens, Cathédrale, Plan de situation des vitraux（矢印は聖ヨハネ伝告の位置、以下同様）

図2 サンス大聖堂《Baie 1》聖ヨハネ伝、聖ペテロ伝他混在、1180頃

図3 図2部分 ドルシアナの蘇生／ラティナ門での灌刑他
図4 ブールジュ大聖堂、ステンドグラス配置図 Bourges, Cathédrale, Plan de situation des vitraux

図5 ブールジュ大聖堂《Baie22》聖ヨハネ伝 (第6〜第10層まで)、1210〜15頃

図6
図5部分
新を黄金に変える奇跡／
示説の執筆／
ドルシアの蘇生他
図7 ベイ礼拝堂 Baye, Chapelle Saint-Alpin, 《Baie 4》聖ヨハネ伝, 1205 ～ 20頃

図8 図7部分 ドルシアナの蘇生

図9 リヨン大聖堂、ステンドグラス配置図 Lyon, Cathédrale, Plan de situation des vitraux

図10 リヨン大聖堂 《Baie 4》聖ヨハネ伝(修復後), 1215 ～ 20頃

図11 図10部分 黙示録の教父／キリストの幻視
図 12 アンジェ大聖堂、ステンドグラス
配置図 Angers, Cathédrale, Plan de situation des vitraux

図 13 アンジェ大聖堂《Baie116》聖ヨハネ伝
（下部と最上部 20 世紀）、1220 〜 25 頃

図 14 図 13 部分 死者の蘇生／ドルシアナの蘇生他
図15 リンカン大聖堂、ステンドグラス配置図
Lincoln, Cathédrale, Plan de situation des vitraux,
図20 トゥール大聖堂、ステンドグラス
配置図 Tours, Cathédrale, Plan de situation des vitraux

図21 トゥール大聖堂《Baie3》prov. de l’Eglise Saint-Martin 1225－30頃か

図22 図21部分 バトモス島への揺立て／警示錨の執筆／ラティナ門での油刑他
図23 クータンヌ大聖堂、ステンドグラス配置図 Coutance, Cathédrale, Plan de situation des vitraux

図24 クータンヌ大聖堂《Baies 207,209,211》聖ヨハネ伝、1230 - 35頃

図25 図24部分 聖霊の執筆

図26 ランス大聖堂、ステンドグラス配置図 Reims, Cathédrale, Plan de situation des vitraux

図27 ランス大聖堂《Baie104》丸窓の中に再利用の聖ヨハネ伝、1225 - 30頃

図28 図27の聖ヨハネ伝（Cahier et Martin, Monographie, 1841-1844より）
図29 トロワ大聖堂、ステンドグラス
配置図 Troyes, Cathédrale, Plan de situation des vitraux

図30 トロワ大聖堂 《Baie 202》型ヨハネ伝、
1240－50頃

図31 図30部分 黒示録の執筆

図32 オーセール旧大聖堂、ステンドグラス
配置図 Auxerre, Ancienne Cathédrale,
Plan de situation des vitraux

図33 オーセール旧大聖堂 《Baie 12》黒示録塗面を含む型ヨハネ伝、1250頃

105